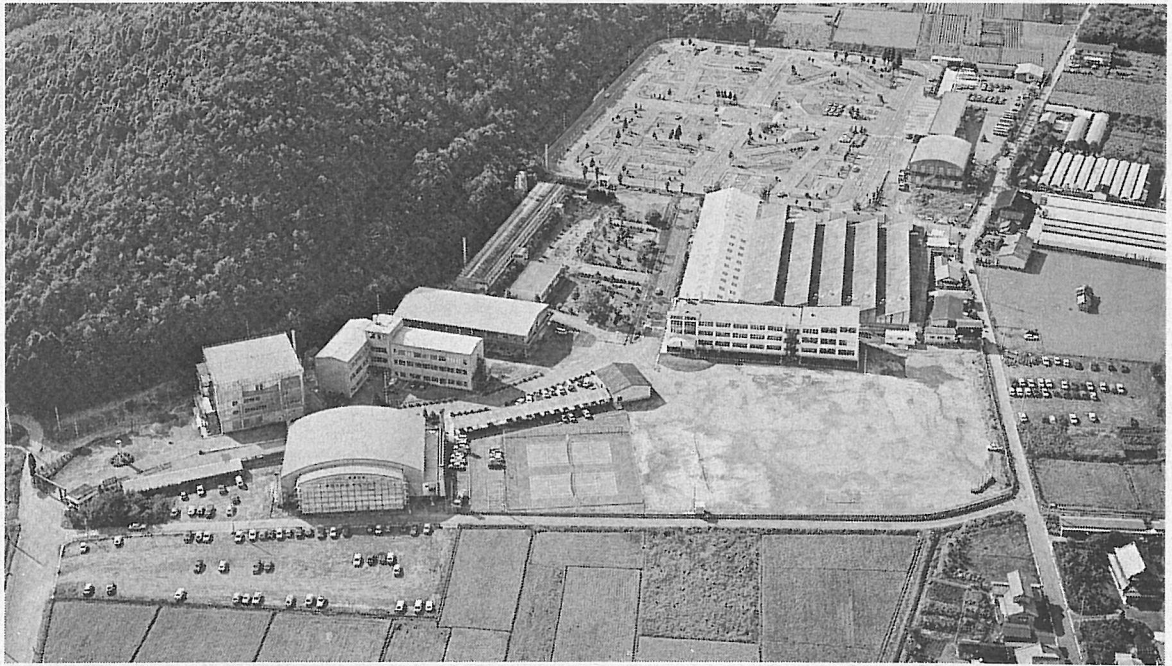


学 友 会

会報

第2号

発行 中日本自動車短期大学学友会事務局
〒505 岐阜県加茂郡坂祝町深堂1301 ☎(05742) 6-7121



会報発刊にあたり



学友会会長

本 田 紳 基

学友各位のみなさま意気揚々して活躍の事と思います。このたび第二号の会報発刊にあたり一言、申しあげたく、ここに学友会の近況の報告をさせていただきます。

さて、昭和五十七年度事業計画も、開学十五周年記念造園事業への積極的参加、総会及び同窓会の開催、大学との協力関係の強化、支部の建立の推進、自治会との協力関係の強化等、実績も着々と上がってきている次第であります。

また、学友の方の一番の要望でありました会員名簿も発刊され、ご希望にこたえられたと思います。なお本年度の同窓会も後記のように名古屋に開催予定し、交通の便、学友会員の多数の参加も容易に出来るものと思ひ、学友会員の多数の参加をお待ちいたしております。また近年、本校の設備も充実し、秋には新学生寮も建設され

るものと本校当局よりお聞きしています。このように本校も日々に発展してきています。また本年は七百名余の多数の入学者を得て本学が全国的にも自他共に日本一の自動車短大として着々と地位を確立してきています。この地位をより強固にするにも、学友の方々の多数の紹介を希望しております。なお本年は支部にての同窓会もどんどん開催していきたいと思ひます。なお本年度もより多くの事業を確実に為し遂げる所存であります。なお、会報発行にあたりご尽力をそそがれた多数の方々にお礼申しあげたいと思ひます。紙面をお祈りして私の方々の健康とご発展をお祈りして私の話とさせていただきます。

雑感 へ未来への道

昭和57年度 中野 秀人

○〇名に達しようとしている。

開学十七年目の短大としては、まさに驚異ともいえる数である。

すでに三十代半ばを越し、社会で中堅として大活躍をしている一

期生、二期生の諸君をはじめ、その裾野は、本年卒業の二十才の若者へと拡がっているのである。

私は、学長として本学の将来問題にふれるに当って、この実態を踏まえずして語る訳には行かない。

社会からの付託に応える上から、どのような卒業生を輩出してゆくかという基本的な課題と共に、〇

B諸君の幅広い各層の要望にも応えうる体質を備えていることが好ましいからである。

現在中堅層で活躍している諸君も、まもなく各部門管理層、経営管理層の中核を担うことになるであらうし、又なつてもらいたいと願うのである。

次に、休むことのない技術革新や、材料・機能部品の革新変化に対応する整備技術・試験機器の発

達とその利用技術の面でも、第一線の〇B諸君を支援できる態勢をも忘れてはならない。

さらに、今後は販売面でも、大きな変革が予想されるところであり、各方面から指摘されるさまざまな要望にも応えうる、カリキュラムの調整、施設の整備、情報供給の態勢など、自動車の分野を考えただけでも思いはふくらむばかりである。

いずれにせよ志願者の憧れの的であり、卒業生諸君が手を携えて母校の後援を誇りとしうる大学でなくてはならない。

教育の場合は、本質的に手造り以外に道はなく、長期にわたって地道に積みあげてゆかねばならぬものであり、施設、カリキュラム、組織、学生指導など、具体的な形で逐次変容しながら定着してゆくという課程を避けては目的を達することはできない。

すでに百名収容を誇る学生寮、又我が国最初の車体整備教育実習棟の建設、学生食堂の整備などにも着手し、新規に一六、〇〇〇平方メートルの学校用地取得についても、目下交渉の過程にあり、昨年発表した十カ年計画に一步を印したが、経過措置としての現状整

備も、原資の調達と共に至難な課題で、この道は平担ではない。今後は「将来計画検討委員会の答申」をまっぴら、真正面から取組んでいきたいと考えている。

昭和57年度役員

会長 本田 紳基
副会長 松浦 信行
監事 市川 邦彦
伊藤 徹
白鳥 元章
若井 義成
柴田 義廣
大脇 澄男
岡田 俊治
会計監査 大原 明人
代議員 中野 秀人
丹羽地章夫 金沢 恒夫
大和 加典 榊原 和明
中島 保晴 杉山 守
細野 満 服部 善成
大矢 亘 相庭 誠夫
花村 直昭 佐藤 幹夫
森滝 肇 高橋 清
松井 孝弘 阿知波重春
森 清司 西側 通雄
水谷千賀夫 脇 俊隆
奥山 雅人 井戸 豊

57年度事業計画

事業担当、大脇澄男

今年度事業計画について概略説明いたします。

- 木村 寧夫 桜山 一倉
- 竹内 大策 横井 隆治
- 林 睦 鹿子嶋正人
- 服部 勇 清水 啓司
- 柴田 勝洋 橋場 博道
- 富田 清美
- 青木 康敏
- 中山 英夫



第三回中日本自動車短期大学学生会同窓会

二、大学との協力関係の強化
去る3月20日名古屋市内において、大学執行部と今後の協力関係について貴重な意見の交換を行ない相互理解を深めました。尚この度大学では百名収容の学生寮を木曾川河畔に設置中ですが、これに関連して学生会は十万円相当の備品を贈ることにしました。

三、講演会の開催
適当な時期に在学生、〇Bに有益と思われる話題について講演会を開催する計画を持っています。

四、会報の発行

五、支部設立の推進と援助

六、学生会館設立準備金積立

七、卒業生への記念品贈呈

八、停年退職者への記念品贈呈

九、研究助成

十、〇B盃争奪ソフトボール大会の主催

今年度より〇B盃を創設し在校生・教職員みなさんに楽しんで頂くことにしました。

十一、その他

(一)売店の検討

(二)母校設立二十周年記念事業への取組み

(三)事務局備品の充実

(四)自治会との協力関係の強化

第四項から第九項までは従来ど

一、総会及び同窓会の開催
昨年10月24日に行ないましたが例年に比べ参加者が少なかった。反面四国・福島など、遠方からの出席があり関係者を喜ばせた。

二、大学との協力関係の強化
去る3月20日名古屋市内において、大学執行部と今後の協力関係について貴重な意見の交換を行ない相互理解を深めました。尚この度大学では百名収容の学生寮を木曾川河畔に設置中ですが、これに関連して学生会は十万円相当の備品を贈ることにしました。

三、講演会の開催
適当な時期に在学生、〇Bに有益と思われる話題について講演会を開催する計画を持っています。

四、会報の発行

五、支部設立の推進と援助

六、学生会館設立準備金積立

七、卒業生への記念品贈呈

八、停年退職者への記念品贈呈

九、研究助成

十、〇B盃争奪ソフトボール大会の主催

今年度より〇B盃を創設し在校生・教職員みなさんに楽しんで頂くことにしました。

十一、その他

(一)売店の検討

(二)母校設立二十周年記念事業への取組み

(三)事務局備品の充実

(四)自治会との協力関係の強化

第四項から第九項までは従来ど



いわゆるシャシASSYと称する部分が自動車から無くなって仕舞い、教材が手に入らなくなったからである。

今までフレームに取り付けられていた主要システム(サスペンション・エンジン・動力伝達・走行等)は、直接ボデーに取り付けられる方法で、車体がモノコック化され、軽量化・省燃費・製作コストの低減と一連の自動車構造の大変化が行われてきた。

これを受けて、自動車の整備部門も変化を要求されるのは当然である。今までメカニズム(認証工場)とボデー(車体工場)を完全に分離して考えてきた整備作業がシャシ作業の一部としてボデー作業を考える必要が生まれてきた。

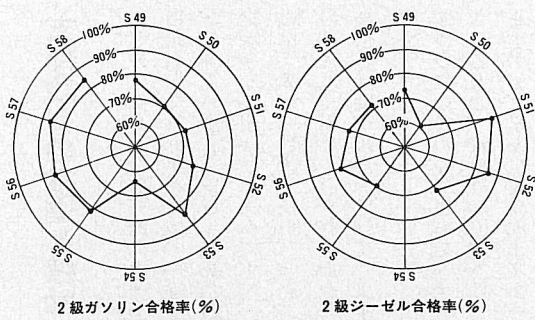
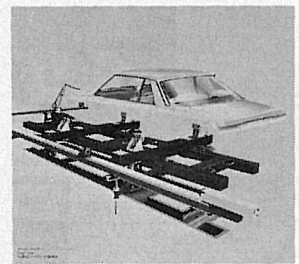
また、製作技術の向上とともに、耐用年数の延びてきた自動車では、今までのような、消耗による整備作業は大幅に減少し、事故破損の修復作業の割合が多くなってくる。

このときに当り、車体修復理論をひとりマスターした二級整備士を養成することにより、時代を先どりした「中日本」としたい。

車体整備士コース
本学の実習教室からシャシの教材として、フレームが消えてから大分年月がたつ。なぜ消えたか。

二級整備士合格率

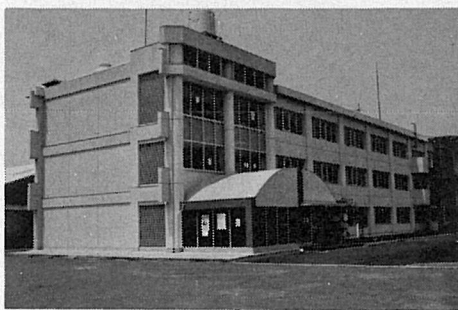
本学が二級整備士教育を行なつて既に十五年余の歳月がたち、その間多くの二級整備士を社会に送ってきた。



士に要求される内容も、公害対策、電子制御、車体構造が付加され、出題範囲も変化している。そうした中で本学の過去十年間の合格率の推移をグラフで見ると上図のようになる。

技術高度化の波に乗りこえよう

今年の七月三十一日に学友会の役員として、名古屋に於いての、会合に出席した。十六年振りに逢う学友諸君は、正に社会人幹部に相応しい成人振りでした。母校を燈台とし、諸先生を真の親と仰ぎ来た。さすが一期生の熱の込んだ論理は、枝葉末節的な功罪論でな



く、母校愛する所以のもので、何ものにも、他ならない真実の声、そのもので有った。その足で勿論、母校の訪問は怠らなかつた。想い出深い、各教室そして実習室、殊に実習室の飛躍した設備は、私の目を見張らせるに充分でした。大須賀教授の鼻ひげが、動く度び如に大声が飛び散る。英語に泣いた感激の机、吹く風の音は、子守唄、正に一期生に帰えり咲いた、一時でした。大学卒業後の、十六年間は私にとつては決して、無駄のない日々でした。何故ならば、母校中日本自動車短大は、私の今日在る、メカとしての生みの親であり、又育ての親でもあるが故である。経営者の一人として、トップに云い得る事は、高度技術と、知識集約の時代である。

法定需要にとられる事なく、自からの積極的的需要を、創り出す姿勢なくしては、時代の波には乗れないだろう。

学友会館の一日も早々の、創立を祈念すると共に、万尺ゆるぎない母校中日本自動車短期大学の、発展を期するもので有る。

最後に学友会、関係役員諸君に感謝する。

学友会総会のお知らせ

第4回学友会総会及び同窓会が下記にて開催されます。名古屋では始めてのことで、卒業生各位の多数の参加をお待ちしています。

なお当日は、母校の先生方もご出席されます。旧友との再会、そして思い出話に花が咲くことでしょうか。友人同志誘い合つて是非ともご出席下さい。

第4回学友会総会(代議員会)
開催日 昭和58年9月11日(日)

会場 安保ビル会議室(名駅前)
TEL0525619831
時間 10時30分～12時
代議員はかならずご出席下さい。
第4回学友会同総会
開催日 昭和58年9月11日(日)
会場 名古屋ターミナルホテル
TEL0525620213
時間 13時～15時
会費 4500円

なお準備の都合上、出欠について同封葉書にてお知らせ下さい。

会員名簿のお知らせ

中日本自動車短期大学学友会会員名簿も昨年、十五期までの総合名簿が完成し、今年三月には十六期生学期の名簿もできより総合名簿と共に活用できるようになっております。また二十周年に向つて名簿の整備には万全の努力を致しておりますが、まだまだ満足のものとは言えません。会報等の発送は、名簿を使用しておりますが、相当多数が毎年宛先人不明として返信されて来ます。住所等に変更

のあった場合は、直ちに事務局まで御一報下さい。また前回販売の名簿もあと少し在庫が有ますので御希望の方は合せて御連絡下さい。
総合名簿 二五〇〇円
十六期単期名簿 五〇〇円
〈申し込み先〉
〒五〇五
岐阜県加茂郡坂祝町深査二二〇一
中日本自動車短期大学学友会
事務局
☎〇五七四二六七一二一

支部設立の推進と援助

学友会会員は今年で既に七千五百余名となり、年々拡大の一途をたどっています。一方、支部の設立は今一歩というところですが、岐阜、愛知、静岡、長野、広島では盛んに支部づくりが行なわれ、楽しい活動が報告がされています。皆さん、先の支部以外に活動を予定されている方、支部設立を考えられている方は、資金等の協力を致しますので、学友会事務局まで御一報下さい。

連絡先
中日本自動車短期大学学友会
事務局 岡田 俊治
TEL(05742) 617121

大学の行事予定

- 9月13日～9月26日 前期定期試験
- 10月1日 後期授業開始
- 10月11日 2級ティーゼン講習開始
- 10月22日 入学願書受付開始
- 12月20日～1月9日 大学祭
- 2月4日～2月16日 冬期休暇
- 2月17日 後期定期試験
- 3月15日 2級カソリン講習開始
- 3月25日 第十六回卒業式
- 3月25日 2級整備士認定試験

来る九月十一日は、第四回学友会総会及び同窓会の予定です。卒業生各位の多数の参加をお待ちしています。

編集後記

第二号会報をこの度発刊することができました。発行にあたり、大学教職員および会員の皆様いろいろな原稿をいただきありがとうございます。今後、毎年発行する予定です。で卒業生であるみなさんの近況等又は御意見なりを学友会事務局まで御連絡下さい。

